

令和5年度 第2回 川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会

日 時 令和5年8月1日（火）

14時00分～

会 場 中原市民館第2会議室

次 第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 館長あいさつ
- 4 資料確認
- 5 令和5年度第1回専門部会の議事録（案）について
- 6 議事（協議事項）
 - ア 令和4・5年度中原市民館専門部会報告書の取りまとめについて
 - イ その他
- 7 その他
- 8 閉会

配布資料

- 資料1 令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）
- 資料2 令和4・5年度中原市民館専門部会報告書の取りまとめについて（案）
- 資料3 中原市民館紹介ブース「ふらっと立ち寄ろう中原市民館」の出店について（案）

令和 5 年度 第 1 回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録 (案)

- 【日 時】 令和 5 年 6 月 23 日 (金) 10 時から 12 時まで
【会 場】 中原市民館第 2 会議室
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、日吉委員
【欠席者】 木村委員
【事務局】 福田館長、船津係長、小栗係長、大久保係長、中島職員
【傍聴人】 0 人

専門部会の委員 8 人中 7 人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 館長あいさつ
- 4 中原市民館新任職員紹介
- 5 資料確認
 - 資料 1 令和 4 年度第 4 回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録 (案)
 - 資料 2 中原市民館の管理運営についての現状
 - 資料 3 中原市民館社会教育振興事業計画 (令和 5 年度)
 - 資料 4 令和 5 年度中原市民館専門部会のスケジュール、調査審議テーマ関連資料
 - 資料 5 川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会委員名簿
- 6 令和 4 年度第 4 回専門部会の議事録 (案) について
- 7 議事
 - (1) 報告事項
 - ア 市民館の管理運営について
 - イ 社会教育振興事業について
 - ウ その他
 - (2) 協議事項
 - ア 令和 5 年度の調査審議スケジュールとテーマについて
 - イ その他
- 8 その他
 - (1) 第 2 回専門部会の開催候補日について
 - (2) 川崎市市制 100 周年記念事業、全国都市緑化かわさきフェアについて
 - (3) その他
- 9 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 部会長あいさつ

鈴木部会長

3 館長あいさつ

事務局（福田館長）

4 中原市民館新任職員紹介

大久保係長、中島職員

5 資料確認

事務局（船津係長）

6 令和4年度第4回専門部会の議事録（案）について

事務局（小栗係長） 資料1について説明し、了承を得た。

7 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営について

事務局（船津係長） 資料2について説明

日吉委員 夜間の利用率が低いというのは、会議室を含めてということか。

事務局（船津係長） 会議室の利用率が低い傾向にある。

日吉委員 多目的ホールはどうか。

事務局（船津係長） 多目的ホールは夜間も利用されていることが多い。利用率については、第3会議室や第6会議室は利用率が低い傾向にあり、料理室や児童室はコロナ禍の影響があるものと推察される。ギャラリーと体育室が利用率は高い傾向にある。

中道委員 利用率向上対策でいうと、体育室の利用機会をまったく得ることができない。以前から申していることの繰り返しになるが、とどろきアリーナのように、午後の貸出時間帯を2分割して、利用機会を増やすことは実現できないのか。

事務局（船津係長） 現在の3コマの利用を6コマを増やすことについて、教育委員会に提案している。

事務局（福田館長） 現在の枠組みでは、各市民館が横並びで実施することになっており、条例を改正しないと難しい。指定管理者制度への移行の動きがある中で、利用時間の自由度を上げるということを盛り込むことができれば実現できる可能性を見出せるかも知れない。

中道委員　なぜそんなに困難なのか。サークル連絡会の会員には困難と伝わっていない。以前に伺った際は、ネット申込のプログラムを変更しなければならないためとの回答を受けた。プログラムを変更することは、それほど難しいことでは無いのではないかとの疑問が出ている。早急に改善していただきたいという意見が常に出ている。いつ変更できるということについて回答は得られないのか。

事務局（福田館長）　方向性が決定した後に、時期が決まることになる。一つは指定管理者制度への移行の際にというのが、私たちの目指しているところである。

中道委員　市民のための市民館なので、行政の都合よりも利用者の希望を、なるべく早く実現していただきたいと私たちは考えている。

事務局（船津係長）　指定管理者制度に移行した際に、指定管理者が柔軟性を持って区分を変えられるようにできないかということをお教育委員会に伝えている。中道委員の意見は、中原市民館からの意見として伝えている。ただし、プログラムを変更することは確かに難しいということはある。指定管理者制度に移行すれば、プログラムやシステムに依存しない形で運用してもらえれば良いと考えている。

梶川委員　和室については改善を図っていただいて感謝している。

事務局（船津係長）　和室では、重いテーブルについても改善を検討している。幅を狭いものを採用すると軽くできるのだが、意見をお聞かせ願えないか。

梶川委員　利用者に高齢者が多いので、重いのは大変。座椅子は助かっている。徐々にお願ひしていきたい。

但野委員　お手洗いの水栓レバーが固かったり、石けん水が溢れるなど、不具合が発生することがある。

事務局（船津係長）　説明が漏れたが、水石けん入れについては6月19日（月）にすべてを新しいものに交換した。

中道委員　3月に中原市民館でフラダンス講座が開催されていたので、私たちのサークル活動のチラシを置いてもらえないか相談したところ、以前の館長から、文化協会が管理しているので、チラシの配架はできないと電話をいただいた。その時の講師は、市民館の近くで教室を開催している方だったので、講座が実質的に教室の宣伝になっているのではないかとの疑問が生じた。

事務局（小栗係長）　指摘の事業は、文化協会と市民館とで協働で実施している事業である。文化協会との連携により、市民の方に伝統文化を学ぶ機会を創出するために実施している。

中道委員　納得できないのは、チラシを配架できないのは講師への配慮であり、講師の宣伝のための事業を、市民館が実施しているというところがどうかと思う。

事務局（小栗係長） 私たちとしては、伝統文化を伝えていくということが重要なことと認識している。

中道委員 それならば、講師の選択がおかしいのではないか。

事務局（福田館長） この先、そのようなことがある場合には、慎重に検討したいと思う。不快な思いをさせて申し訳ない。

中道委員 サークルとしても、会員を増やしたいという思いがあるので、敏感になっている部分もある。オープンキャンパスなどを開催していただいているのは有り難いが、その一方で、当該講座の受講生からサークルへの問合せは無く、その講師の教室へ行っている方がいると考えると、個人の利益につながっているのではないかと思ってしまう。

梶川委員 この事業は文化協会と市民館の協働事業なので、営利ではない。

中道委員 講座自体は営利ではなくとも、チラシを置かせてもらえていないということは、他の団体の活動を知らせないということだと解釈している。それは、講師への気遣いと考えている。

鈴木部会長 今の話のどこが問題なのか明らかにした方が良いのではないか。

事務局（船津係長） 推測になるが、営利につながっているところなのではないか。

中道委員 それに加えて、市民館を会場にしているのに、市民館で活動しているサークルのチラシを置けないというところについても疑問を感じる。文化協会の活動なので置くことはできないという回答だったが、市民館を利用している事業なのに、文化協会の活動とする回答にも疑問を感じている。

事務局（船津係長） 会場内では置けないという意味ではないのか。

中道委員 どういう形でもよいので置かせて欲しいと伝えている。

事務局（船津係長） どういう形でもよいというのも説明しているのか。

中道委員 説明している。市民館内に掲出しているサークルのポスターを見ていただくよりないとの回答だった。

事務局（船津係長） 市民館を拠点に活動している団体が利用できるようなパンフレットラックを置くというアイデアもあると思う。直営で実施しているが故に、横並びにせざるを得ないところがあるのかも知れないが、指定管理者制度に移行する際には、そのような事が独自でも実現できるように働きかけをしていきたいと思う。

イ 社会教育振興事業について

事務局（小栗係長） 資料3について説明。また、今年度の市民自主事業として採択いただいた「中原ドリーム応援隊」の「中原区で「自分」「周り」のハッピー化ワークショップ」について、団体から運営体制の整備等が難しいとの理由で、中止の承認

申請を4月18日付けで受理し、4月24日付けで中止が決定したので、併せて報告する。

但野委員 青少年教室事業はどんな内容を実施するのか、教えて欲しい。

事務局（小栗係長） 「H a y a b u s a 2 大航海再び」と題して、元NEC航空宇宙システムの小笠原雅弘氏を講師に招き、概ね小学4年生以上の児童及び生徒60人を対象に、「はやぶさ」から「はやぶさ2」の功績及び拡張ミッションに加え、将来の日本の太陽系探査計画についても学ぶことを予定している。

事務局（中島職員） コロナ禍で学生の校外学習の機会が失われてしまったので、市民館として、大きなプロジェクトを計画している事業を紹介して、学生に夢を持って欲しいと考えて計画した講座になる。

但野委員 楽しみだ。

ウ その他

特になし。

（2）協議事項

ア 令和5年度の調査審議スケジュールとテーマについて

事務局（小栗係長） 資料4について説明

鈴木部会長 市民館は、予約した会議室を利用しに来る場所なので、そのままでは、ふらっと立ち寄る可能性は少ないのではないかと。新たに場所を作ったりだとか、人を配置したりだとかする必要があるのではないかと。そういうことができるかどうかだと思ふ。

滝沢委員 この市民館を利用したことがある人は、仕組みを理解しているかも知れないが、来たことも無い人に、どのように市民館の存在を知らせるかが必要。

日吉委員 駅などにデジタルサイネージがある。例えば、子どもたちが撮影した「市民館ってこんなところ」「こんなことやってるよ」というものをサイネージで流したりするのはどうか。子どもたちが参加できる、お父さんお母さん向け、おじいちゃんおばあちゃん向けのように示されたら良いと思う。ホームページを見たりはしないと思う。区役所などで繰り返し流れるように出来たら良いと思う。ふらっと立ち寄るのは難しいかも知れないが、困っている人たちや学校に行けない子どもたちが、利用しているのを見かけるので、そういう人たちが利用しやすくなると思う。

鈴木部会長 それは1階のラウンジか。

日吉委員 そうだ。

但野委員 ラウンジはゆったりと使われていて、良い場所と思う。

鈴木部会長 ラウンジのみを大々的にPRしたら、今まで使っていた人が使えなくなってし

まうかもしれないが、困っている人の助けになれば良いと思う。

中道委員 先日実施したサークル祭でも、コロナ前と比べて来場者が減った。どうやって来てもらうかという宣伝の仕方が大事だと思う。中原市民館の場所自体を知らない人も多い。ワクチンの接種会場として初めて認知したという人もいる。マンションにのぼり旗を立てるのは美観の問題があり、チラシを道で配るのは警察との関係があって、なかなか広報が難しいと感じている。今は、市民館だよりとロコミが頼りになっている。

日吉委員 あとはタウンニュースとか。

中道委員 タウンニュースにも掲載してもらっているが、なかなか難しい。

日吉委員 確かに新聞をとっていない人も多いし、タウンニュースをネットで見ると少ないと思う。その意味では、私たちより若い世代の方に中原市民館を知ってもらうのは大変なことだと思う。

梶川委員 市民館だよりは、回覧版で回ってくる。

日吉委員 親は子どもたちが持ってこないと思わないと思う。もう少し中原市民館の事を知ってもらえると良いと思う。

事務局（船津係長） ふらっと立ち寄れる、この付近の施設としては、ららテラスであるとか、グランツリーだとかがあり、目的が無かったとしても皆さんも立ち寄るかと思うが、一方で映画鑑賞であれば映画館に行くし、フロンターレのファンであれば、等々力陸上競技場に行くという目的意識を持って行く場所もある。中原市民館を知ってもらう早道は、中原市民館に立ち寄ってもらうこと。ららテラスやグランツリーへ行く方に、中原市民館に気づいてもらうことが必要だと思う。その意味で、ららテラスやグランツリーと中原市民館が相互に広報し合う事ができれば良い。今日市民館で何かやっているなら立ち寄ってみようかなと思ってもらうことが必要だと思う。中原市民館を知ってもらうなら、それを実現させるための方策が必要なので、そこは議論してもらえると良いと思う。配布した資料にも、こういうのがあったら良いというアイデアは出ているが、実際に中原市民館に立ち寄るための答えにはなっていない。その答えが出れば、ふらっと立ち寄れるようになるのではないかな。そこを突っ込んで議論出来たら良いと思う。

但野委員 グランツリーはすごい集客量だと思う。そういった意味では、ウインウインで無いと対応してもらえないと思うので、中原市民館にもサインージを設置して、今日このようなイベントをそれぞれで実施しているということを、地域で同じ情報を流してもらうことができれば良い。

事務局（船津係長） どのような情報をお互いに載せ合うのかとか、どのようなタイミングで更新したら良いかなどのアイデア出しを行い、当日のイベントを広報して集客するというのが、一番の早道かつ、唯一の道でもあるのではないかなと思う。

但野委員 イベントを実施していたことを知っていたら、寄ってみたいと思ったこともあ

るので、そういう情報が拾える場所があると有り難いと思う。

事務局（船津係長） 例えば、サークル祭の時にも、多数の方が中原市民館前の道路は通っているはずなのに、市民館内には立ち寄ってくれないという現実があると思う。サイネージを見た方に寄ってもらうとか、あるいは、チラシに、立ち寄った際には何かしらの特典があることが記載されていたりすると保管しておこうと思うのではないか。その人にとってメリットがあれば立ち寄ると思う。

但野委員 サイネージを設置するとなると、維持費などの経費も発生するのでは。

事務局（船津係長） サイネージでは維持費もそうだが、コンテンツの充実と更新について負担が大きい。コンテンツを集めるのと、提供を受けたコンテンツをサイネージに掲載するために変換する作業が発生する。それを分担して実施するとか、専門性のある方に頼めたりすると、上手くいくというところはある。

梶川委員 来月中原市民館を会場に主催する、なかはらっぱ祭りは、区の主催か。

事務局（船津係長） そうだ。

梶川委員 なかはらっぱ祭りの会場は、中原市民館のほかにグランツリーなども使うと聞いているので、そうすると、相互に往来が発生すると思う。

但野委員 予算経費が必要なことだと思うが、なかはらっぱ祭りでは、透明な袋に鮮やかなチラシを入れて持って歩いてもらえれば広報になるのではないかとこのところと、うちわを配ろうというアイデアも出ている。暑い時期なので、うちわだったら使ってもらえるのではないかとこの意図で作成を検討している。

事務局（船津係長） 開催の時期を合わせるという手法もあると思う。例えば、サークル祭の開催日を、ららテラスやグランツリーのイベント実施日と敢えてぶつけることなども考えられるのでは。中原市民館で実施している学習相談なども、イベントに合わせて開催すると集客がある。集客があるということは中原市民館を知ってもらう、立ち寄ってもらうことに繋がる可能性があると思う。いままで実施していなかった方法も検討してみる必要もあるのではないか。

菊地副部会長 頂いた資料で場づくりに関する記載がある。これまでの意見等として、体育室を一部開放するとか、ラウンジの一部をいつでも立ち寄れるスペースにするとか出ているが、こういった内容は、市民館として実現可能なのだろうか。中原市民館に居場所があると良いなど、居場所が重要だと感じた。

事務局（船津係長） この資料に記載されているのは実現可能ということより、これまで議論された、ふらっと立ち寄れることを可能にするためのアイデアだと思う。例えば、部屋の目的を変えるということになると、反対意見が多数寄せられることも考えられるし、調整が必要なことだと思う。ただし、既存の仕組みに囚われていたら新しいことはできないので、例えば、昼休みの間は開放するなど、部屋自体の開放ができなくとも逆転の発想をすることも考えられると思う。空いている夜間の部屋を学生の勉強の場として開放するなどもあり得ると思う。

菊地副部長 グランツリーには行って、中原市民館になぜ行かないのかを考えると、グランツリーはどこに何があるというのが大体わかっている、あそこで何ができる、誰と行くと楽しめるというのが分かっている。それに対して、市民館では、フロアマップではないが、どこで何ができるのか分からないというのはある。

中道委員 まず、中原市民館がここにあるということを皆さんが知らないのだと思う。この場所に中原市民館という建物があるということを知らないと、今日何があるとか、どんなイベントがあるということが始まらないと思う。例えば、中原市民館でサークル祭があっても、中原市民館という建物と場所を知らないと、市民館の前の道を歩いていても立ち寄らないと思う。この場所に中原市民館があるということを市民に示すものがないと、どんなアイデアを出しても、ふらっと立ち寄ることはできず、なかなか前に進まないのではないかと。

事務局（小栗係長） これまでの皆さんの議論を聴いていると、中原市民館をふらっと立ち寄る市民館にするためには、中原市民館自体の広報が必要なのではないかと感じた。中道委員の話もそのような内容に感じたのと、先ほど菊地副部長からもフロアマップという話があったが、確かに、来たことがないと何がどこにあるか分かりにくい。但野委員からも昨年度だったと思うが、1階をうまく利用すれば配架されているチラシを見てもらえるという発言があったと記憶しているが、それも一度来てもらわないと伝わらない。もしかしたら、ふらっと立ち寄れる市民館の第一歩は、中原市民館自体の広報をすることなのかも知れないと思った。

滝沢委員 確かに。中道委員も発言していたが、中原市民館がここにあるということを知らないと、何も始まらない。利用者しか中原市民館の場所を知らないと思う。利用したことが無い人はほとんど知らないと思う。

但野委員 中原市民館は、料理室にしても、音楽室にしても、こんな設備があったということが、使っていても毎回気が付くことがある。写真ではなく動画。中原市民館の紹介動画のようなものがあれば良い。

日吉委員 先ほども言ったとおり、大人が大人の視点で見ても、あまり効果的ではない。子どもとか、若い学生さんとかに力を貸してもらおうとか。例えば、子どもと大学生がタッグを組んで撮影を一緒にしてもらおうとか、サークルでも撮影できる場所があれば撮影してもらえると良いと思うし、文化協会もこんなことをしているというのが伝わると良いと思う。

但野委員 先ほど、空いている夜間の部屋を開放するという話があったが、もし空いている部屋を開放することができるのなら、部屋自体を見学できるようなことができると良いのではないかと。

日吉委員 今日開放できる部屋の一覧があり、入ってきたらそれを見て利用することができれば、利用率も良くなるのでは。

但野委員 3日前からは予約できなくなるということは、それ以降は空いている部屋にな

るはずなので、そこが利用できたら良いのでは。

事務局（船津係長） そのようなことを試行しようとしたこともあったのだが、セキュリティの問題が問われた。例えば、女性が1人で勉強していた時に、同世代の男性が入ってきて他に誰も居ないという状況が生まれたときに、大丈夫かという声が上がったり、誰かしら1名でも見守る人が居ないといけないのではないか、それを誰が担うのかなどの意見が出ていた。単純にはいかないとは思いますが、アイデアとしては良いと思う。

日吉委員 一般的に勉強部屋として利用されている部屋は、そのような状況は生じるのではないか。

事務局（船津係長） 勉強目的でない人が予期せず入り込むことがあり得る。

中道委員 危機管理の問題がある。

事務局（船津係長） 施設管理者としては、危機管理が問われることになる。

但野委員 人員を配置する訳にはいかないだろう。

事務局（船津係長） どなたか担ってくださるところがあればというところがある。

事務局（福田館長） そこも併せて考える必要が出てくる。

日吉委員 それは現時点の問題か。それとも指定管理者制度に移行した際に、申し伝える必要があるということか。

事務局（船津係長） そういふところを伝える機会を設けたいという思いはある。

日吉委員 話し合う機会が無いということもあるのか。

事務局（船津係長） 公募で募集することになるので、手続に沿って行われることになる。

但野委員 移行時期は令和7年か。

事務局（小栗係長） 令和7年だ。

但野委員 運営が変わってしまうかも知れないということか。

事務局（福田館長） 良い方に変えたいと思っている。

菊地副部長 「わが町かわさき映像創作展」というのがあり、学校関係者や大学生などが応募できるのだが、下河原小学校が昨年応募したものがノミネートされ、賞をいただいた。中学校だと宮前平中学校などが受賞している。それは子どもたちがテーマを決めてビデオを作っていたので、子ども目線で映像を作っても面白いかと思った。

事務局（小栗係長） 下河原小学校か分からないが、拝見したことがあるように記憶している。短い作品だと思う。

菊地副部長 3～4分だ。

鈴木部会長 議論は続いているが、時間もあるので、次に進みたいと思う。

イ その他

特になし。

8 その他

(1) 第2回専門部会の開催候補日について

事務局（船津係長） 第2回の予定についてお諮りしたい。

事務局（小栗係長） お手元に日程調整表をお配りしている。午後の方が時間が長く取れるので、そのようにしている。8月31日〆切で、協力願いたい。

(2) 川崎市市制100周年記念事業、全国都市緑化かわさきフェアについて

事務局（小栗係長） 配布資料について説明。

事務局（福田館長） 補足するが、市制100周年については、川崎市が何かしますから皆さん来てくださいということではなく、色々な活動に100周年を結び付けていたきたいというのが市長の考え方で、一緒に作りましょうというところがある。チラシにQRコードがあるので見ていただいて、動きがあることを認識していただきたい。市民館としては、100周年記念プレ事業として、絵本作り講座を図書館と一緒に実施する。中原区50周年からイベントが続くが、それで終わりではなく、その先を描いていくために、市民館も結び付けていきたい。今後動いていくものなので、見守っていただければと思う。

(3) その他

日吉委員 次回の専門部会までの間に、審議テーマについての議論を煮詰めるような日を設定していただけないか。職員が参加するのが難しくても、委員だけでも集まれる場所を用意していただくとか。そうでないと、議論がぼやけたままで次回を迎えてしまいそうな気がする。

鈴木部会長 議論がぼやけてしまうのは、テーマの性質の関係もあるのでは。

日吉委員 いま、動画を撮影したらどうかということまで来ている。もしその方向で進めるならば、誰がどんなことを撮影するのかなどを議論しないと実現できないのではないか。それとも、来年度以降に持ち越すための議論と位置付けるのか、せめてそういうことだけでも決めておく必要があるのではないか。

事務局（船津係長） まず、動画を撮るということに、皆さん合意形成はできるのか。

日吉委員 その決定もされないままになってしまう。

鈴木部会長 次回も同じような議論になってしまうかも知れないが、まだこれで行こうというものができていない。

日吉委員 第1回の6月と、第2回の10月の間に、どこかで方向性を決める場が必要なのではないか。

但野委員 団体に撮影を打診する時間なども必要だと思う。

事務局（福田館長） せっかく今日、現実的な意見が出てきたので、温度感は大事にしたいと思う。

日吉委員 何もしないと、10月もゼロスタートになってしまう。

但野委員 動画を撮ってみるところは、皆さんどうですか。

事務局（船津係長） 編集を前提とするはず。撮っても全部を使える訳では無い。それぞれ

活動している状況を、とりあえず撮り溜めていただくというのはどうか。

事務局（小栗係長） どこまでクオリティを求めるかという問題もあると思う。外に出せるものを作成するという手法もあると思うし、スモールスタートというか、できる範囲でやってみるという考え方もあると思う。できる方は動画撮影を試していたいて、次回は、動画についての議論から進めるという方法もあるのでは。

日吉委員 木村委員の意見を伺う機会が必要では。動画を作成するという方向で良いのであれば、サークルさんの御都合などを伺って撮影するのは、やぶさかでない。

事務局（福田館長） 例年こういうスケジュールで進めているというのを今回お示ししている。皆さんがお許しいただけるなら、例えば8月、夏休みがあるから、時期的なものを含めて、このぐらいの時期であれば、そう温度感が下がらないというところで、おまとめいただけると良いと思う。

菊地副部長 今回の資料で、スケジュールやこれまでの発言などをまとめていただいた資料がとても有り難かった。昨年度末に盛り上がった話の内容がここに収まっている。私たちはアイデアは出すが、市民館として発出することになると思うので、市民館として検討していただく時間も必要ではないか。

但野委員 仮に市民館のPR動画を作成した場合、発信元はどこになりますか。

事務局（福田館長） そこを含めて、どれぐらいのことができるのかというのがある。動画撮影しようということでもまとまったということでもよいか。もう一回早い段階で議論するか。

日吉委員 もう1回ぐらいできると良いと思う。7月とか。

事務局（福田館長） では7月で会議室の空き状況を確認しながら、もう1回設定をさせていただいて、それぞれのところで、市民館の動画について、どういうことができるのか、皆さんでイメージをしていただいて、それを事前に持ち寄って、まとめて、お出しして、その時点で集まっておいただくイメージでも良いのかと思う。

日吉委員 いろいろなところへお声がけすることを考えると、7月の後半ぐらいに一度できると良いと思う。LINEで日程調整することもできると思う。

但野委員 場所を把握するために、外観が大事というのがあって、建物の外観を撮影する時に、権利関係がどうなるかっていうのを、調べておいていただけないか。

事務局（福田館長） いったん管理会社の方に聞いてみて、確認する必要がある。

事務局（小栗係長） 中原市民館が取材を受ける際には、居住部分が含まれるので、外観の撮影は難しいと申し受けていた。

事務局（福田館長） 外観の撮影がまったくできないかどうかは、改めて、私の方から聞いてみる。

菊地副部長 市の部署の中で、動画の編集に詳しい方とかはいるか。

事務局（船津係長） 編集はさせていただく。

日吉委員 すべての素材をお渡しするのではなくて、ある程度編集したものをまとめてい

ただくようにしたいと思う。

事務局（船津係長） 改めて7月中に一度設定する方向で検討するので、よろしくお願ひしたい。以上で、令和5年度第1回社会教育委員会議中原市民館専門部会を終了とする。

9 閉会

令和4・5年度中原市民館専門部会報告書の取りまとめについて（案）

●今後の調査審議事項について

テーマ：「ふらっと立ち寄れる市民館」

【本テーマを設定した理由】

- ・「ふらっと立ち寄れる市民館」とするには、まずもって市民館の存在を多くの方に知っていただくことが重要。知っていただくための具体的な取組を市民館と専門部会が一体となって実施しつつ、「ふらっと立ち寄れる市民館」とするためのアイデアを併せて提案し、実現を目指していきたい。また、着実にこれらの取組を積み重ねていくことで、区民の夢や希望を育てるような市民館にしていきたいと考えたため。

【報告書のまとめ方】

令和5年度中に専門部会で実施する2つの取組についての成果（実施と検証）を報告書に記載する方法とする。

- ・具体的には、中原市民館を知ってもらうために次の2つの取組を実施し、その成果を記載する。併せてふらっと立ち寄れる市民館を実現するための提言を記載する。

- 1 お祭りでの中原市民館紹介ブースの出店（8月26日・なかはらコアまつり）
- 2 中原市民館紹介動画の作成（試行）
- 3 「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現するためのアイデア提案

（例「空き会議室の活用方策等について」など。最低でも一つの項目について具体的な議論を行い、実現可能な形を提言する）

【取組の実施方法について】

「なかはらまつりワーキング」と「動画作成ワーキング」の2つのワーキンググループを立ち上げ、ワーキンググループを主体として取組を進める。

- ・ワーキングは必要に応じて適宜開催する。（開催日時、頻度等についてはそれぞれのワーキングに任せる。）
- ・第2回専門部会において、専門部会委員の皆様にも、どちらかのワーキング（両方も可）に参加するかを決めていただき、活動を開始する。

●今後のスケジュールについて（変更案）

6月23日（済） 「令和5年度 第1回 中原市民館専門部会」

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議

8月1日（火） 「令和5年度 第2回 中原市民館専門部会」

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議、関連事業の実施内容について検討
- ・専門部会報告書の構成決め

以降は予定

適宜 ワーキングによる活動を実施

8月26日（土） なかはらコアまつりにブース出店・コラボイベントを館内で実施

適宜 ワーキングによる活動を実施

9-10月 「令和5年度 第3回 中原市民館専門部会」

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議、関連事業の成果取りまとめ
- ・専門部会報告書の予定稿の確認

適宜 ワーキングによる活動を実施

2月 「令和5年度 第4回 中原市民館専門部会」

- ・令和6年度市民自主学級、市民自主企画事業の企画選考
- ・専門部会報告書原稿の確認

※ 関連事業はワーキンググループを作ってそのメンバーで進めていく。

令和5年度プレイイベント開催概要 (なかはらコアまつり)

開催場所

- 1 開催日時
8月26日（土）16時～20時
(※予備日として、8月27日(日))
- 2 開催場所
こすぎコアパーク
市道小杉町21号線
Kosugi 3rd Avenue サウスパーク
- 3 主催
中原区における川崎市制
100周年記念イベント
実行委員会



《趣旨》

- 来年度の市制100周年を控え、区民の熱量を上げ、市制100周年の認知度向上を目的にプレイイベントを実施

なかはらコアまつり 会場見取り図

JR武蔵小杉駅

《目的》

- みんなでイベント体験を共有することで、このまちが大好きに、そして地域への愛着を深める
- このイベントをきっかけとして生まれたものを、将来のよりよい文化にしていく
- これまでのあゆみや歴史・文化に「愛着」と「誇り」を持っていただく機会とする

③むかしあそび体験
(サウスパーク)

②中原区の魅力エリア
(21号線北側)

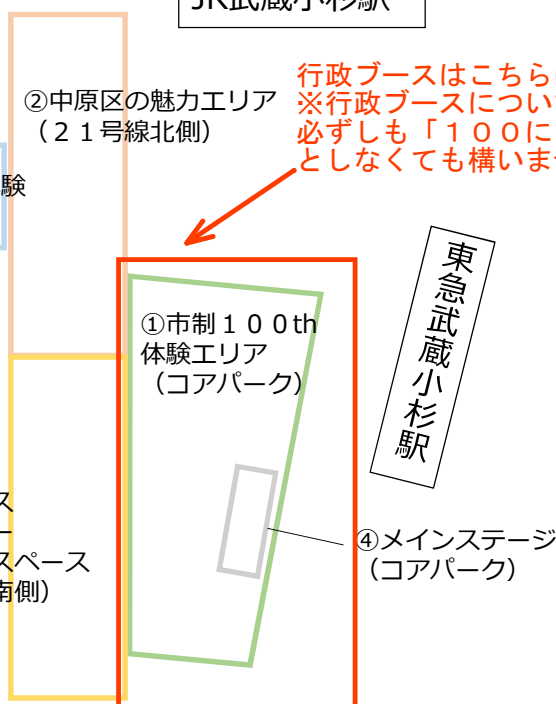
行政ブースはこちらに出店予定です。
※行政ブースについては、必ずしも「100にまつわる体験ブース」としなくても構いません。

①市制100th
体験エリア
(コアパーク)

東急武蔵小杉駅

⑤飲食ブース
キッチンカー
休憩・飲食スペース
(21号線南側)

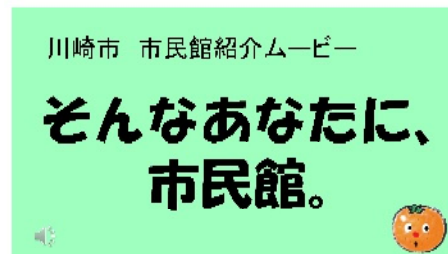
④メインステージ
(コアパーク)



なかはらコアまつりコラボ企画 ふらっと立ち寄ろう「中原市民館」プロジェクト（案）

1) 企画概要

チーム分け	A 会場（こすぎコアパークチーム） B 会場（中原市民館チーム）
実施場所	なかはらコアまつり出店ブース（A 会場）及び中原市民館内（B 会場）
対象	お祭りの来場者で中原市民館に来たことのない方、本企画に関心を持った方
方法	<p>【A 会場】ブース前で展示や広報物の説明・市民館チラシ配布・市民館への誘導やPR／常時3名以上</p> <p>【B 会場】市民館内の確保場所でイベントを実施 / 各部屋に2名以上</p> <p>【共通】ふらっと立ち寄れる市民館とするためのデジタルアンケート実施（配布物にQRコード記載・後日回答可）</p> <ul style="list-style-type: none">・B会場は、夜間区分でグループ室、実習室、和室、料理室、児童室、第4会議室、第5会議室を確保済み。1階ラウンジや格子戸の前の利用も可能。・従事するスタッフは目安1時間ごとに交代する。・来館した方に提供できる景品や飲食物があると来館する動機につながる。
実施アイデア	<p>16mm映写機による投影、バルーンアート、缶バッジ作成、100人しりとり、かるた釣り、こわい話（怪談話の朗読）で涼もう、スタンプラリー、市民館ツアー、料理室で〇〇、市民館紹介動画ループ再生など</p> <p>※リストは現段階でアイデアベースのもの。参加にあたっての事前申込は不要とする。</p>
実施目的	<ul style="list-style-type: none">●「市民館を知ってもらおう」ための活動の展開・情報発信●「ふらっと立ち寄れる市民館」とするためのアイデアをアンケートから集約
主催	コラボ企画の主催は中原区役所生涯学習支援課（中原市民館）
日時	2023年8月26日（土）祭り開催時間16:00～20:00 予定 市民館でのイベント開催時間は17:30～20:30 予定
備考	市民館の夜間の利用区分が17時15分からのため、準備時間15分程度で完了できる会場レイアウト作成が望ましい。難しければB会場は18時からとする。来年度は、川崎市100周年、中原市民館開館50周年、中原市民館新館移転15周年となることを周知できるよう工夫する。今回は100周年に関連付け、100人のふらっと来館者数を目標人数としたい。



2) 実施に当たっての課題

- ・各部屋でどのようなイベントをするかのコンテンツ準備
- ・必要な材料や物品の調達
- ・事前準備を進めるための役割分担決め（レイアウトチーム、広報チラシ準備チーム、スタンプラリー作成チーム等）・当日参加可能スタッフのリストアップ及び当日の配置や役割分担決め・当日タイムスケジュールの作成、QRアンケートの作成等